

# 平成28年度学校評価

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点			
確かな学力体力	学習規律の確立	①チャイムが鳴ったら席に着き、落ち着いて授業にのぞむ。	前期	3.3	/	2.9	○教師が早めに教室に行き、指導をした。 ○委員、係が呼びかけをした。少しずつ生徒の自治能力ができてきた。	◎生徒会活動を通して、委員、係の呼びかけをよりいっそう活発にさせるとともに、教師・生徒ともに時間を守る意識を高める。			
			後期	3.1		3.0					
		②各学級の『学習目標』が学習のルールとして定着できている。	前期	2.7		3.4			2.7	○「学習目標」を立てることで、学習における目標が具体化され、学習のルールが定着できている。	◎年度当初、学級の実態把握が不十分な時に立てた目標であり、前期・後期で評価・改善が必要である。
			後期	2.8		3.3			2.8		
	授業の創造・工夫	①「めあて」と「まとめ」のある授業を行う。	前期	3.1	/	3.4	○「めあて」の提示はある程度、定着している。 ●「まとめ」が十分にできていないことや「めあて」との整合性がない場合がある。	◎校内研修会・教科部会等で「めあて」と「まとめ」の提示方法や内容等について確認をしていく。			
			後期	3.0		3.3					
		②授業力の向上のための具体的な方策として、学習の仕方の指導、学習指導の工夫、教材・教具の開発等を図る。	前期	2.8		3.2	3.3	○思考力、判断力、表現力を高める授業を研究発表会で示すことができた。 ●まだまだ指導方法の工夫改善の余地がある。	◎更なる指導方法の工夫や教材研究に励む。		
			後期	2.9		3.2	3.3				
		③コミュニケーションの場の設定工夫(挙手・発問の工夫、小集団の活用)を行い、生徒の『活用する力』の向上を図る。	前期	2.7		/	3.3	○学び合い活動の工夫が多く授業で見られた。 ●「活用する力」を高めるための、単元計画の改善が必要である。	◎活用力の育成と基礎基本の定着のバランスを考慮しながら学習指導をする。		
			後期	3.0			3.4				
	校内研修の充実	①年間計画を明確にし、年間の見直しをもって研修を行う。	前期	2.8	/	/	○研究発表会を開催し、研究成果を発表することができた。	◎次年度から新たな研究主題で研修を実施する。 ◎研究推進委員を増員し、研修内容の充実を図る。			
			後期	2.7							
		②授業改善の視点に基づいた校内研修の充実を図る。	前期	3.0		/	/	○日常の授業において授業改善の意識が高まり、授業に多くの工夫・改善が見られた。	◎本年度の研究の成果をもとに授業改善をさらにすすめる。 ◎道徳の教科化を見据えた研修を進める。		
			後期	2.8							
		③学力向上プランのPDCAサイクルによる活用について、教科内での情報交換及び連携を図る。	前期	2.6		/	/	○学力検査の結果で一定の成果が見られた。 ●教科やテストによって点数にばらつきが見られた。	◎基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の向上の両方の充実を図る。		
			後期	2.6							
④生徒による授業評価等の分析をふまえた、授業改善を行う。		前期	2.5	/		/	○評価項目を意識した授業づくりに励み、授業評価の数値が向上している。 ●教科により授業評価の数値にばらつきがある。	◎日常から評価項目を意識した授業づくりに努める。			
		後期	2.9								
家庭学習の定着	①教科の課題や生徒の実態をもとに、学力向上のため、学年として組織的(朝の打ち合わせや学年部会)、具体的(週末課題や補充学習)に取り組み、学力を1ポイント以上、上げる。	前期	3.1	/	/	○各学年、学力向上の取り組みを組織的に、1、2年生では1ポイント以上上昇することができた。 ●個に応じた課題を準備する必要もある。	◎忘れ物をした生徒の効果的な指導方法を工夫する。				
		後期	3.1								

No.1

評価基準 4大変できた 3概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった ※ 標準値を 2.5 として換算しています。

# 平成28年度学校評価

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点		
豊かな心	道徳教育の推進	①道徳の時間の指導をローテーションで実施し、指導方法の充実を図る。	前期	3.0	/	/	○ローテーションで道徳の授業を実施することができた。 ●生徒の実態による題材の変更でローテーションの計画がずれることがあった。	◎道徳の指導方法について研修を行い、全ての教師が道徳の授業に取り組む。		
			後期	2.6						
		②生徒の人間性を高めるために、人権・同和教育担当および学年の道徳担当が中心となって学年部会等で提案する。	前期	3.0					○各学年において、人権学習を実施することができた。 ●先を見通して人権感覚を育成するための取り組みを計画する必要がある。	◎道徳と人権教育の担当が連携をし、年度当初に特設人権学習等の計画を立てておく。
			後期	3.0						
	人権・同和教育の推進	①「わたしたちの道徳」「かがやき」「あおぞら」などを効果的に活用する。	前期	2.6			/	/	●「わたしたちの道徳」「かがやき」「あおぞら」を十分に活用できていない。	◎年間計画を見直し、効果的に活用できるよう、年度当初に確認をする。
			後期	2.5						
		②生徒の人権意識を高める学級づくり・授業づくりを行う。	前期	3.0					○日常生活において人権意識を高める指導を行った。 ●自他ともに大切にしようとする意識や態度をさらに育てる必要がある。	◎教師の人権意識を高め、継続して人権意識の高揚に努める。
			後期	2.8						
	豊かな体験活動の充実	①高校体験等を通して、望ましい進路観を育てる。	前期	3.1			3.4	3.3	○3年は「親子高校体験」、2年は「高校の先生の講話」「職場体験」と、それぞれ体験学習を実施した。 ○1年は様々な職業の方を招いて職業講話を行い、将来について考えさせた。	◎体験学習を系統的に実施するよう、実施時期の変更を含め年間計画を再検討する。
			後期	2.8			3.3	3.3		
		②感動ある学校行事の創造のための学年・学級の集団づくりを行う。	前期	3.1			3.5	3.4	○諸行事において、生徒が全力を出せるよう、学級指導・学年指導を行った。 ●時宜を得た事後指導や日常の学校生活に生かす指導が不十分であった。	◎学校教育目標、学年教育目標に基づき、今後も継続して集団づくりを行う。
			後期	2.9			3.3	3.4		
生徒指導の充実	①毎週の生徒指導部会や学年部会で生徒の情報交換をきめ細かく行い、すばやく対策を講じる。	前期	3.1	/	/	○情報交換は毎日行うとともに、報告・連絡・相談も早期に行うことで、素早い対応をとることができた。	◎全職員で生徒指導にあたることを確認し、報告や連携をしていく。			
		後期	3.2							
	②SC研修会やいじめの早期発見マニュアルの活用により、いじめを許さない学級集団をつくる。	前期	2.7			3.2	3.2	○個人面談やアンケートの活用を通して、いじめの早期発見・早期解決に努めた。 ●一部、意識が変わらない生徒がいた。	◎常日頃からいじめを許さないという認識のもと、組織として指導にあたる。	
		後期	3.7			3.2	3.2			
	③日常的な生徒との面談、生活ノート、生徒の生活実態調査等を活用し、教育相談の充実を図る。	前期	3.0			3.1	3.4	○生活の記録やアンケートを基にした個人面談等を通して、生徒の実態把握に努め、悩みの解決の一助とした。 ●面談の時間が十分には取りにくい。	◎生徒一人ひとりに目を配り、小さな変化を見逃さないようにする。問題発生時は組織的に取り組む。	
		後期	3.1			3.1	3.4			
	④生徒の安全管理を中心とした危機対応に迅速かつ組織的に取り組む。	前期	3.0			/	/	○日常生活において、各自が安全管理に気を配り、教育活動を行った。 ○修理等が必要な箇所は迅速に対応した。	◎危機管理のための研修を定期的実施する。	
		後期	3.2							
⑤生徒会を中心とした挨拶運動を通して、挨拶の徹底を図る。肯定的評価で85%を目指す。	前期	2.7	3.3	3.3	○肯定的評価の割合は、生徒89.0%、保護者90.3%であり、目標数値は達成できた。 ○全職員で挨拶の励行を心掛けた。 ●まだまだ元気な挨拶ができない生徒が多い。	◎教師は率先してあいさつをする。◎毎月24日の「にしの日」を中心としたあいさつ運動を積極的に実施する。				
	後期	2.5	3.2	3.4						

No.2

評価基準 4大変できた 3概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった ※ 標準値を 2.5 として換算しています。

# 平成28年度学校評価

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点
郷土愛と国際的視野	国際理解教育を柱とした郷土愛の育成	①総合的な学習の時間(キャリア教育)は学年部会で活動の目的を共通理解し、組織的に取り組む。	前期	3.3			○各学年ともキャリア教育の一環としての体験学習を実施することができた。	◎体験学習の事前、事後も充実させ、より系統的なキャリア教育を計画する。
			後期	3.3				
		②総合的な学習(文化理解科)の時間において国際理解教育の推進を図る。	前期	3.3	3.2	3.6	○2,3年生は、文化理解科の活動に熱心に取り組む、国際理解教育を推進することができた。 ○本校の取組を他校に紹介する機会を持つことができた。	◎外部講師の方と連携をとりながら、今後も継続して取り組む。
			後期	3.1	3.2	3.6		
		③体験活動を重視したキャリア教育の推進を図る。	前期	3.2			○1年は職業講話、2年は職場体験学習、3年は親子高校体験学習を実施することができた。	◎今後も系統的な体験学習を計画する。
			後期	2.9				
		④おおさの川の清掃活動や夏祭り、もちつき等の地域行事を通して郷土愛の育成を図る。	前期	2.5	3.2	3.4	○10月は100名余りの参加があった。地域に貢献する意識の高さを感じられた。 ○地区集会を開催し、地域行事に意欲的に参加しようとする生徒が多数見られた。 ●5月は体育会準備と重なり参加することができず、地域清掃活動を行った。	◎郷土愛を育成するために、今後も様々な活動に参加できるように、地区長を選任し地区集会を通して推奨していく。
			後期	2.6	3.2	3.4		
環境教育	清掃活動の充実	①時間いっぱい無言清掃を行う。	前期	2.6		2.8	●委員会活動では取組を進めているが、一部で掃除が雑であったり、無言清掃ができていなかったりした。	◎無言清掃の意義を理解させ、生徒会活動と連動したり、学級指導をしたりすることで徹底を図る。
			後期	2.5				
	教室環境、校内掲示板の充実	①生徒の作品掲示等、学級や学年、校内掲示の充実に努める。	前期	3.0			○学級、学年の掲示物は、生徒作品を中心として、時期に応じて活動の様子が見えるものを掲示することができた。	◎掲示物担当を中心に生徒の活動が見える充実した掲示物作成をめざす。
			後期	2.9				
	校舎内外の安全点検	①毎学期の安全点検の実施等により、生徒の学習環境の充実に努める。	前期	2.6			○長期休暇前に安全点検を実施した。 ●危険箇所の補修はできているが、老朽化が進んでいるところがある。	◎校内研修等において、全職員が常に安全に配慮できるように、定期的に啓発する。
			後期	2.6				
		②清掃区域を中心とした施設の安全管理に日常的に取り組む。	前期	2.6			○清掃指導をしながら、点検等を行い、日頃から安全管理に努め、補修が必要な箇所について報告がされている。	◎危険箇所等は全職員に周知し、安全管理は今後も継続して取り組む。
			後期	2.9				
	安全教育の推進	①避難訓練を実施し、危機管理意識を高める。	前期	2.6			○2回、避難訓練を実施することができた。 ○消防署の方に来ていただき、消火訓練を実施することができた。 ●避難訓練における生徒の態度に緊張感が欠ける面が見られた。	◎避難訓練の効果的な実施方法の検討が必要である。
			後期	2.6				
		②薬物乱用防止教育の充実を図る。	前期	2.7			○元保護司の方に1,2年生に向けて講話をしていただいた。大変わかりやすく効果的な講話であった。 ●講話に視覚資料があるとよかった。	◎本校の中学生にふさわしい講師を3人探し、3年間でローテーションできるようにしたい。
			後期	2.9				

No.3

評価基準 4大変できた 3概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった ※ 標準値を 2.5 として換算しています。

# 平成28年度学校評価

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点		
組織運営	主任・主事等の学校経営参画意識の高揚	①毎朝の主任会において、学年の状況報告を行い、日々の対応の充実を図る。	前期	3.4	/	/	○主任会においては、十分な連絡・調整をすることができた。	◎今後も継続していく。		
			後期	3.4						
	②定期的に各分掌の進捗状況を主任、主事に報告する。	前期	3.0	/			/	○定期的に分掌部会を持つことができた。 ●分掌によっては、当該学年のみの指導になったり、各学年ごとの指導になったりしていたこともあった。	◎運営委員会等を通して、各部の主任、主事が積極的に分掌業務を推進し、状況の把握に努める。	
		後期	3.0							
	校務分掌の機能化	①定期的な分掌部会で学校評価結果をもとにしたPDCAサイクルによる組織的な取り組みを行う。	前期	2.8			/	/	○学期に1回、定例の分掌部会を開き、協議の場を持ち、分掌の取り組みをまとめ、評価をすることができた。 ●日常的な連絡調整には課題が残った。	◎日頃から、必要に応じて分掌内で連携がとれるよう、意識付けや時間の確保等、工夫をしていく。
			後期	2.8						
	学年部会の充実	①学年部会で、学年の課題に対する具体的な対応を明確にし、実践する。	前期	3.3			/	/	○学年部会で様々な内容について協議することができた。 ●学年部会をひらくための時間の確保がむずかしい。	◎先を見通して、早め早めの指導ができるようにする。 ◎定例の学年部会の日の設定を検討する。
			後期	3.3						
②各学年主任は各学級の学級経営状況の把握と適切な指導・助言を行う。		前期	3.4	/	/	○学年主任がある程度、状況を把握しながら、指導・助言を行うことができた。			◎主任会等を通して、主任の指導力向上に努める。	
		後期	3.4							
地域保護者との連携	保護者との信頼関係の確立	①気になる生徒の状況等について、家庭訪問等を行い、きめ細やかな情報提供を行う。	前期	3.3	/	/	○保護者には早めに連絡をとり、情報提供を行うことができた。 ●連絡がとりにくい家庭や、連絡しても返事の来ない家庭があった。	◎保護者との信頼関係を築くことができるよう、今後も連絡を密にとる。		
			後期	3.1						
	学校だより等による積極的な情報発信	①学校だより、学年・学級だより、インターネット等を通して、地域・保護者に積極的に情報発信する。	前期	3.0			3.3	/	○様々なたよりを学校、学年から出すことができた。またホームページを活用し、情報発信することができた。 ○安全・安心メールを利用した情報の発信を適宜することができた。	◎ホームページの充実など、よりよい情報発信の方法を模索する。
			後期	3.0			3.3			
	PTAとの連携	①PTAと連携し、学級懇談会や自治会長との懇談会、地域懇談会の充実を図る。	前期	3.0			3.3	/	○諸懇談会を実施することができた。 ●学級懇談会は、時期によっては参加率が低い時があった。	◎懇談がさらに深まるよう、時期や内容等をさらに改善する。
			後期	2.9			3.1			
		②校区パトロールや体育会パトロール等の取り組みを通して、PTAと連携して生徒の健全育成に努める。	前期	2.8			3.3	/	○定期的にパトロールを実施することができた。 ●保護者の参加者が固定している。	◎より多くの保護者の方に参加していただくよう、「げんこつの会」への参加を呼びかける。
			後期	2.8			3.2			
③様々なPTA活動を通して、保護者との連携を深める。		前期	2.8	3.2	/	○色々なPTA活動に参加していただき、活発に活動することができた。 ●年度の後半は大きな行事がなくなるため連携の実感が少なくなる。	◎コミュニティ・スクールと連動して、より多くの方がPTA活動に参加しやすくなるようにする。			
		後期	2.7	3.1						

No.4

評価基準 4大変できた 3概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった ※ 標準値を 2.5 として換算しています。